

ステファニー・ロード：「家」

ステファニー・ロードの作品は、社会的、哲学的、歴史的な問題を取り入れています。そして、彼女の芸術は社会の反映と彼女の根本的な人生の問題と関係がある。

ロードさんは、多様な文化の価値観を一つの作品に込めており、異なる国から来た人々が皆同じレベルで作品を楽しめるでしょう。そして、彼女の写真作品は発展を続けています。ロードさんの作品は公共の場を利用しており、現地に住んでいる一般の人々と協力し合い作り上げています。現地の人々の思いや、心のこもったアートともいえるでしょう。

ステファニー・ロード：「私の作品の中で繰り返し現れるテーマは「家」です。家というシンボルは色々な見方があります。私が注目しているのは、知的理解ではなく、より深い現実的、個人的な見方です。例えば、家について夢を見るとき、それは子供として学ぶ基本的な家、帰る場、を象徴するかもしれません。私の作品の第二の側面は繰り返しです。繰り返しを通じ、初めて人間はある出来事の単純さを理解し理解することができます。」

写真撮影：

ステファニー・ロードの写真にも家のテーマがあります。彼らのプロジェクトの1つは短編映画です。そこでは、人々がそれぞれの考えで「家」という言葉を表現し、日常会話によく使われている言葉が違うように聞こえてきます。話すことによって、私達の心に影響を与えます。ロードさんはこの問題について人々に母国語でインタビューし、家という言葉が現れるすべての単語を集めるプロジェクトを2007年以来続けています。まだ未完成です。

長期的な別の写真プロジェクトは「クリスマスツリーの下に家族」です。13年以上の間、彼女はクリスマスの時に彼女の隣人を写真に撮って、人間の存在の一過性を記録するだけでなく、人生の繰り返しの周期を示しています。まず、1枚目の写真は、幼い子供を持つ親、そして子供は巣立ち、親一人が家に残ります。しかし、また新しい隣人が追加され、小さな子供たちと一緒に写真が繰り返されます。このアートプロジェクトも明確な終わりはありません。

彼女の最新の写真シリーズ（2017年開始）の「ニットハウスの家」では、彼女自身と写真に写った人々に問います。「あなたにとって家とは何ですか？それは友達、

家族、私物それとも街の風景や場所、記憶ですか？どうすれば、家のような場を作る事が出来ると思いますか？家が無かったらどうしますか？」

クリスチャン・モルゲンシュテルンが言うように、「あなたの家は、住んでいる場所ではなく、あなたが理解される場所です」。ステファニー・ロードのアートプロジェクト/インスタレーションを行っている国は、彼女の母国、オランダ、アムステルダムだけではなく、ギリシャ、スペイン、中国、ドイツでも活動しています。

